





# 第110回国立大学医学 部長会議に参加して

医学研究科長 石橋恭之

て重大な懸念事項です。青森県は医師過剰には程遠い状況にあるものの、今回の議論では、近い将来、全国的に医学部臨時定員枠が削減される可能性が示唆されました。

去る令和7年10月24日、第百十回国立大学医学部長会議が神戸ホートピアホテルで開催されました。

各種委員会報告、会議規則改正、および収支予算の協議に加え、(1)間接経費の取扱い、(2)CATO\*およびJACME\*\*の会員費値上げの是非、(3)国外医学部卒の日本人学生の国試受験資格付与の問題、(4)ESTAによる医学生の短期留学、(5)令和九年医学部臨時定員の配分、といった提案事項について活発な議論が交わされました。

会談後には、文科省高等

教育局から「医学教育の現状と課題」(日比謙一郎医学教育課長)、厚労省医政局から「シームレスな医師養成に関する取組について」(中田勝己医事課長)、JACMEから「JACMEによる医学教育評価がもたらし

た成果と今後の課題」(奈良信雄常勤理事)、日本医学会連合から「我が国の医学研究力向上にむけて」(門脇孝会長)の四名による来賓講演が行われました。

どの提案議題、講演テーマも、本学に深く関わる重要な課題であり、示唆に富るものでした。中でも医学部臨時定員配分枠(本学の現状は二十七)は、地域医療を担う我々にとつて極め



## 伝統を大切に信頼される 麻酔科医の育成を目指して

麻酔科学講座 教授 斎藤淳一

方針に基づき、大学の設置・認可権限を持つ文部科学大臣の認可によって決定され、医師数の調整が行われました。しかし、既に医学部臨時定員枠が削減される可能性が示唆されました。

一見無関係に見える、国外医学部卒の日本人学生への国試受験資格付与の問題

も、実はこの定員問題と密接に関連しています。ご存じのように医学部の入学定

員は、厚労省の「医師養成

過程を通じた医師の偏在対策等に関する検討会」での議論や、政府の閣議決定の

国内に二校の医科大学が新設されたのと同等となりま

す。この問題は、単に国外

医学生の質の保証に留まらず、国内の医師過剰に拍車をかけ、さらには国外の医

学校に進学できる学生は富

めで大丈夫なのかと悩みました。

私は岩手県稗貫郡大迫町

(現・花巻市)の出身です。

高校では一貫して医学部志

望だつたものの得意教科は

みなならずスペシャリストと

して何ができるのかである

と思います。ひとりにひとつ

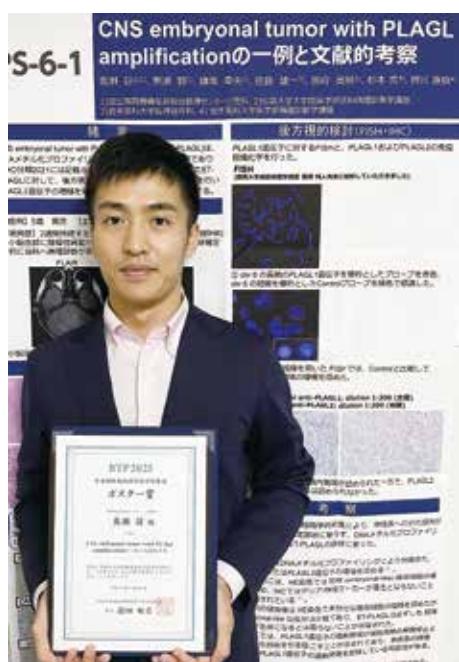
のサブスペシャリストと

して何ができるのかである

だと思います。ひとりにひとつ

のサブスペシャリストと

して何ができるのかである



小児科学講座客員研究員の奥瀬諒です。このたび、第四十三回日本脳腫瘍病理学会学術集会において、ポスター賞を受賞いたしましたので、この報告申し上げます。

発表演題は「CNS embryonal tumor with PLAGL amplification」という稀な小児中枢神経系腫瘍に関する症例報告で、組織学的特徴の検討および蛍光 *in situ* ハイブリダイゼーション (FISH) 法を用いたコピー

数解説結果をまとめました。本腫瘍は従来の組織診断では確定診断に至らず、DNA メチル化プロファイリングにより分類される腫瘍で、PLAGL1 遺伝子または PLAGL2 遺伝子の増幅を FISH 法で確認できました。今回の発表では、本腫瘍の組織学的特徴を詳細に検討し、PLAGL1 遺伝子の増幅を FISH 法で確認できました。近

年、脳腫瘍診断では組織学に加えてメチル化解析による診断・分類が重要な要素となっていますが、費用や専門性の観点から一般診療での実施は困難な状況です。本研究では症例報告ではありま

るが、FISH 法という比較

(前ページより)  
この「声」を通した経験が、その後に耳鼻咽喉科を選択するきっかけの一つになります。また、最近は各地のマラソン大会に参加することを楽しんでいます。弘前での生活では、これら趣味も通じて地域を深く知り、皆様と交流できる機会も増えることを期待しております。

秋田大学卒業後、私は同大学耳鼻咽喉科に入局し、秋田大学医学部附属病院を中心として臨床と研究に従事してきました。この間、大学院では頭頸部癌の進展機序を分子生物学的視点から研究し、二〇〇六年から二〇二一年に本邦で治療が開始された光免疫療法を東北で初めて導入したほか、全国的にも取り組みが少ない喉頭形成術を中心とする音声外科の立ち上げも経験しました。弘前の地においても、これらの経験を活かしながら耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療の深化と国際化に努めて参りたいと考

えたります。

また、高度な医療の発展に加え、地域医療の充実は本講座が担う極めて重要な責務であると考えています。聴覚、嗅覚、味覚、音声、嚥下など耳鼻咽喉科が関連する様々な専門医療を本講座が担う極めて重要な責務であると考えています。聴覚、嗅覚、味覚、音

組みました。これらの経験は私の専門分野の一つであり、現在に至っています。また、秋田大学では、常に時代の先端とともに様々なニーズに応えるべく、新たな分野の開拓にも尽力しました。手術、化学療法、放射線療法、免疫療法に続く「第五のがん治療法」として注目され、世界に先駆けて二〇二一年に本邦で治療

が開始された光免疫療法を東北で初めて導入したほか、全国的にも取り組みが少ない喉頭形成術を中心とする音声外科の立ち上げも経験しました。弘前の地においても、これらの経験を活かしながら耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療の深化と国際化に努めて参りたいと考

えております。

## 受賞報告 第43回日本脳腫瘍病理学会学術集会 ポスター賞を受賞して

小児科学講座客員研究員

奥瀬 諒

当日は、学生、栄養士、会社員、看護師など様々な立場から計六十三名の方々

医学部ウォーカー第115号  
受賞報告 第43回日本脳腫瘍病理学会学術集会  
ポスター賞を受賞して

小児科学講座客員研究員 奥瀬 諒

当日は、学生、栄養士、会社員、看護師など様々な立場から計六十三名の方々

医学部ウォーカー第115号  
受賞報告 第43回日本脳腫瘍病理学会学術集会  
ポスター賞を受賞して

小児科学講座客員研究員 奥瀬 諒

当日は、学生、栄養士、会社員、看護師など様々な立場から計六十三名の方々

当日は、学生、栄養士、会社員、看護師など様々な立場から計六十三名の方々



松田尚也講師講義風景：  
脳しんとうの認識と復帰判断の要点を解説。

山本祐司講師講義風景：  
熱中症予防対策の要点を解説。

に参加いただきました。各プログラムでは「JSPD公認スポーツドクター」を講師に迎え、「(1)脳しんとうを疑つて」、「(2)熱中症の予防と発症時対応」、「(3)スポーツ現場における救命・救急処置」の実際(熊谷担当)、「(4)熱中症の予防と発症時対応」、「(5)熱中症の予防と発症時対応」、「(6)熱中症の予防と発症時対応」、「(7)熱中症の予防と発症時対応」、「(8)熱中症の予防と発症時対応」、「(9)熱中症の予防と発症時対応」、「(10)熱中症の予防と発症時対応」、「(11)熱中症の予防と発症時対応」、「(12)熱中症の予防と発症時対応」、「(13)熱中症の予防と発症時対応」、「(14)熱中症の予防と発症時対応」、「(15)熱中症の予防と発症時対応」、「(16)熱中症の予防と発症時対応」、「(17)熱中症の予防と発症時対応」、「(18)熱中症の予防と発症時対応」、「(19)熱中症の予防と発症時対応」、「(20)熱中症の予防と発症時対応」、「(21)熱中症の予防と発症時対応」、「(22)熱中症の予防と発症時対応」、「(23)熱中症の予防と発症時対応」、「(24)熱中症の予防と発症時対応」、「(25)熱中症の予防と発症時対応」、「(26)熱中症の予防と発症時対応」、「(27)熱中症の予防と発症時対応」、「(28)熱中症の予防と発症時対応」、「(29)熱中症の予防と発症時対応」、「(30)熱中症の予防と発症時対応」、「(31)熱中症の予防と発症時対応」、「(32)熱中症の予防と発症時対応」、「(33)熱中症の予防と発症時対応」、「(34)熱中症の予防と発症時対応」、「(35)熱中症の予防と発症時対応」、「(36)熱中症の予防と発症時対応」、「(37)熱中症の予防と発症時対応」、「(38)熱中症の予防と発症時対応」、「(39)熱中症の予防と発症時対応」、「(40)熱中症の予防と発症時対応」、「(41)熱中症の予防と発症時対応」、「(42)熱中症の予防と発症時対応」、「(43)熱中症の予防と発症時対応」、「(44)熱中症の予防と発症時対応」、「(45)熱中症の予防と発症時対応」、「(46)熱中症の予防と発症時対応」、「(47)熱中症の予防と発症時対応」、「(48)熱中症の予防と発症時対応」、「(49)熱中症の予防と発症時対応」、「(50)熱中症の予防と発症時対応」、「(51)熱中症の予防と発症時対応」、「(52)熱中症の予防と発症時対応」、「(53)熱中症の予防と発症時対応」、「(54)熱中症の予防と発症時対応」、「(55)熱中症の予防と発症時対応」、「(56)熱中症の予防と発症時対応」、「(57)熱中症の予防と発症時対応」、「(58)熱中症の予防と発症時対応」、「(59)熱中症の予防と発症時対応」、「(60)熱中症の予防と発症時対応」、「(61)熱中症の予防と発症時対応」、「(62)熱中症の予防と発症時対応」、「(63)熱中症の予防と発症時対応」、「(64)熱中症の予防と発症時対応」、「(65)熱中症の予防と発症時対応」、「(66)熱中症の予防と発症時対応」、「(67)熱中症の予防と発症時対応」、「(68)熱中症の予防と発症時対応」、「(69)熱中症の予防と発症時対応」、「(70)熱中症の予防と発症時対応」、「(71)熱中症の予防と発症時対応」、「(72)熱中症の予防と発症時対応」、「(73)熱中症の予防と発症時対応」、「(74)熱中症の予防と発症時対応」、「(75)熱中症の予防と発症時対応」、「(76)熱中症の予防と発症時対応」、「(77)熱中症の予防と発症時対応」、「(78)熱中症の予防と発症時対応」、「(79)熱中症の予防と発症時対応」、「(80)熱中症の予防と発症時対応」、「(81)熱中症の予防と発症時対応」、「(82)熱中症の予防と発症時対応」、「(83)熱中症の予防と発症時対応」、「(84)熱中症の予防と発症時対応」、「(85)熱中症の予防と発症時対応」、「(86)熱中症の予防と発症時対応」、「(87)熱中症の予防と発症時対応」、「(88)熱中症の予防と発症時対応」、「(89)熱中症の予防と発症時対応」、「(90)熱中症の予防と発症時対応」、「(91)熱中症の予防と発症時対応」、「(92)熱中症の予防と発症時対応」、「(93)熱中症の予防と発症時対応」、「(94)熱中症の予防と発症時対応」、「(95)熱中症の予防と発症時対応」、「(96)熱中症の予防と発症時対応」、「(97)熱中症の予防と発症時対応」、「(98)熱中症の予防と発症時対応」、「(99)熱中症の予防と発症時対応」、「(100)熱中症の予防と発症時対応」、「(101)熱中症の予防と発症時対応」、「(102)熱中症の予防と発症時対応」、「(103)熱中症の予防と発症時対応」、「(104)熱中症の予防と発症時対応」、「(105)熱中症の予防と発症時対応」、「(106)熱中症の予防と発症時対応」、「(107)熱中症の予防と発症時対応」、「(108)熱中症の予防と発症時対応」、「(109)熱中症の予防と発症時対応」、「(110)熱中症の予防と発症時対応」、「(111)熱中症の予防と発症時対応」、「(112)熱中症の予防と発症時対応」、「(113)熱中症の予防と発症時対応」、「(114)熱中症の予防と発症時対応」、「(115)熱中症の予防と発症時対応」、「(116)熱中症の予防と発症時対応」、「(117)熱中症の予防と発症時対応」、「(118)熱中症の予防と発症時対応」、「(119)熱中症の予防と発症時対応」、「(120)熱中症の予防と発症時対応」、「(121)熱中症の予防と発症時対応」、「(122)熱中症の予防と発症時対応」、「(123)熱中症の予防と発症時対応」、「(124)熱中症の予防と発症時対応」、「(125)熱中症の予防と発症時対応」、「(126)熱中症の予防と発症時対応」、「(127)熱中症の予防と発症時対応」、「(128)熱中症の予防と発症時対応」、「(129)熱中症の予防と発症時対応」、「(130)熱中症の予防と発症時対応」、「(131)熱中症の予防と発症時対応」、「(132)熱中症の予防と発症時対応」、「(133)熱中症の予防と発症時対応」、「(134)熱中症の予防と発症時対応」、「(135)熱中症の予防と発症時対応」、「(136)熱中症の予防と発症時対応」、「(137)熱中症の予防と発症時対応」、「(138)熱中症の予防と発症時対応」、「(139)熱中症の予防と発症時対応」、「(140)熱中症の予防と発症時対応」、「(141)熱中症の予防と発症時対応」、「(142)熱中症の予防と発症時対応」、「(143)熱中症の予防と発症時対応」、「(144)熱中症の予防と発症時対応」、「(145)熱中症の予防と発症時対応」、「(146)熱中症の予防と発症時対応」、「(147)熱中症の予防と発症時対応」、「(148)熱中症の予防と発症時対応」、「(149)熱中症の予防と発症時対応」、「(150)熱中症の予防と発症時対応」、「(151)熱中症の予防と発症時対応」、「(152)熱中症の予防と発症時対応」、「(153)熱中症の予防と発症時対応」、「(154)熱中症の予防と発症時対応」、「(155)熱中症の予防と発症時対応」、「(156)熱中症の予防と発症時対応」、「(157)熱中症の予防と発症時対応」、「(158)熱中症の予防と発症時対応」、「(159)熱中症の予防と発症時対応」、「(160)熱中症の予防と発症時対応」、「(161)熱中症の予防と発症時対応」、「(162)熱中症の予防と発症時対応」、「(163)熱中症の予防と発症時対応」、「(164)熱中症の予防と発症時対応」、「(165)熱中症の予防と発症時対応」、「(166)熱中症の予防と発症時対応」、「(167)熱中症の予防と発症時対応」、「(168)熱中症の予防と発症時対応」、「(169)熱中症の予防と発症時対応」、「(170)熱中症の予防と発症時対応」、「(171)熱中症の予防と発症時対応」、「(172)熱中症の予防と発症時対応」、「(173)熱中症の予防と発症時対応」、「(174)熱中症の予防と発症時対応」、「(175)熱中症の予防と発症時対応」、「(176)熱中症の予防と発症時対応」、「(177)熱中症の予防と発症時対応」、「(178)熱中症の予防と発症時対応」、「(179)熱中症の予防と発症時対応」、「(180)熱中症の予防と発症時対応」、「(181)熱中症の予防と発症時対応」、「(182)熱中症の予防と発症時対応」、「(183)熱中症の予防と発症時対応」、「(184)熱中症の予防と発症時対応」、「(185)熱中症の予防と発症時対応」、「(186)熱中症の予防と発症時対応」、「(187)熱中症の予防と発症時対応」、「(188)熱中症の予防と発症時対応」、「(189)熱中症の予防と発症時対応」、「(190)熱中症の予防と発症時対応」、「(191)熱中症の予防と発症時対応」、「(192)熱中症の予防と発症時対応」、「(193)熱中症の予防と発症時対応」、「(194)熱中症の予防と発症時対応」、「(195)熱中症の予防と発症時対応」、「(196)熱中症の予防と発症時対応」、「(197)熱中症の予防と発症時対応」、「(198)熱中症の予防と発症時対応」、「(199)熱中症の予防と発症時対応」、「(200)熱中症の予防と発症時対応」、「(201)熱中症の予防と発症時対応」、「(202)熱中症の予防と発症時対応」、「(203)熱中症の予防と発症時対応」、「(204)熱中症の予防と発症時対応」、「(205)熱中症の予防と発症時対応」、「(206)熱中症の予防と発症時対応」、「(207)熱中症の予防と発症時対応」、「(208)熱中症の予防と発症時対応」、「(209)熱中症の予防と発症時対応」、「(210)熱中症の予防と発症時対応」、「(211)熱中症の予防と発症時対応」、「(212)熱中症の予防と発症時対応」、「(213)熱中症の予防と発症時対応」、「(214)熱中症の予防と発症時対応」、「(215)熱中症の予防と発症時対応」、「(216)熱中症の予防と発症時対応」、「(217)熱中症の予防と発症時対応」、「(218)熱中症の予防と発症時対応」、「(219)熱中症の予防と発症時対応」、「(220)熱中症の予防と発症時対応」、「(221)熱中症の予防と発症時対応」、「(222)熱中症の予防と発症時対応」、「(223)熱中症の予防と発症時対応」、「(224)熱中症の予防と発症時対応」、「(225)熱中症の予防と発症時対応」、「(226)熱中症の予防と発症時対応」、「(227)熱中症の予防と発症時対応」、「(228)熱中症の予防と発症時対応」、「(229)熱中症の予防と発症時対応」、「(230)熱中症の予防と発症時対応」、「(231)熱中症の予防と発症時対応」、「(232)熱中症の予防と発症時対応」、「(233)熱中症の予防と発症時対応」、「(234)熱中症の予防と発症時対応」、「(235)熱中症の予防と発症時対応」、「(236)熱中症の予防と発症時対応」、「(237)熱中症の予防と発症時対応」、「(238)熱中症の予防と発症時対応」、「(239)熱中症の予防と発症時対応」、「(240)熱中症の予防と発症時対応」、「(241)熱中症の予防と発症時対応」、「(242)熱中症の予防と発症時対応」、「(243)熱中症の予防と発症時対応」、「(244)熱中症の予防と発症時対応」、「(245)熱中症の予防と発症時対応」、「(246)熱中症の予防と発症時対応」、「(247)熱中症の予防と発症時対応」、「(248)熱中症の予防と発症時対応」、「(249)熱中症の予防と発症時対応」、「(250)熱中症の予防と発症時対応」、「(251)熱中症の予防と発症時対応」、「(252)熱中症の予防と発症時対応」、「(253)熱中症の予防と発症時対応」、「(254)熱中症の予防と発症時対応」、「(255)熱中症の予防と発症時対応」、「(256)熱中症の予防と発症時対応」、「(257)熱中症の予防と発症時対応」、「(258)熱中症の予防と発症時対応」、「(259)熱中症の予防と発症時対応」、「(260)熱中症の予防と発症時対応」、「(261)熱中症の予防と発症時対応」、「(262)熱中症の予防と発症時対応」、「(263)熱中症の予防と発症時対応」、「(264)熱中症の予防と発症時対応」、「(265)熱中症の予防と発症時対応」、「(266)熱中症の予防と発症時対応」、「(267)熱中症の予防と発症時対応」、「(268)熱中症の予防と発症時対応」、「(269)熱中症の予防と発症時対応」、「(270)熱中症の予防と発

ております。二〇二五年度は弘前大学が担当で、分子病態病理学講座の水上が実行委員長、旧病理生命科学講座の後藤先生が事務局長になり、準備、開催されました。約四十名の学生、引率者の先生に参加していただきました。弘前大学からは五年生の坂本君、二川原さん、阿部君が参加してくれました。今年度は前日の夕方懇親会を佐和家で開催しました。やはり、アルコールの力は偉大で（もちろん



二〇二五年八月二十三日、二〇二五年病理夏の学校 in 弘前を未来イノベーションセンターで開催しました。「病理夏の学校」は、日本病理学会やその地域支部が主催する集中セミナー・ワークショップです。対象者は主に医学部生、歯学部生、初期研修医、病理医を目指す若手医師、研究者で、病理医の実際を知り、病理研究や診断への理解を深め、少しでも病理医、研究者を増やすことを目的に行っています。東

ん二十歳からですが）、初めて会った学生同士でも多くの会話がなされ、和気あいあいとした雰囲気が醸し出されておりました。弘前の夜を皆さん楽しんだようです。開催当日は、まずグループを作り、午後のC.P.Cのためのスライドづくりを行つてもらいました。弘前大学の学生さん達は病理学実習で鍛えた知識を十分に発揮できたはずだと信じております。症例自体は事前にバーチャルスライドを回覧していたものの、なか

なか大変そうでしたが、協力して課題をこなしておりました。午前中は講演を申されました。心としたプログラムが組まれました。北海道大学大学院の田中伸哉医学研究院長の特別講演ではこれまでの研究の道のり、特にハイドロゲルを使つたがん、再生研究についてご講演いたしました。非常にレベルが高くて、我々の研究医意欲を

から「病理医からのメッセージ」という題でご講演いただきました。現場の先生方の生の声（いいことも悪いことも）は将来病理医を選択するにあたって大きな示唆になつたのではないかと思います。また、今後はグループ別に学生さんによるCPCの発表を行いました。苦労のかいあり皆さん素晴らしい発表でし

理医のリクルートとして、有意義な会だったと思います。参加してくださいました学生、研修医の皆さま、各大学の引率の先生方、開催を手伝ってくださいました黒瀬教授、加藤授、吉澤准教授を始めといた弘前大学病理関係者の様に厚く御礼を申し上げます。

式会社丸大サクラヰ薬局からのご寄付を原資として平成二十九年度に設立されました。今年四月二日、本研究賞の設立者である櫻井清一郎会長が急逝されました。この場をお借りして、ご生前の多大なるご貢献に深く感謝をすると共に、謹んでご療を推進していく必要があります。そのため、健康障害を伴う肥満症に対する減量手術を含む集学的治療によって、肥満症に伴う疾患の罹患率や死亡率を減少させました。

申し上げます。本賞の目的は、国際的医学研究による研鑽を通じ、大学院医学研究科及び医学部附属病院における研究者の育成、青森県の地域課題である短命県の返上並びに将来にわたる地域医療の更

2025年病理夏の学校in弘前を開催して

分子病態病理学講座 教授 水上浩哉

このたび、医学部附属病院袴田院長のご厚意により「肥満症・栄養治療センター」が五月十四日付で院内措置センターとして正式に認可されました。また、七月十四日には、設置趣旨や活動内容、今後の展望等について各テレビ局・新聞社などに記者発表（プレスリリース）を実施いたしました。

内科 放射線科、リハ  
シヨン部、形成外  
部、看護部、栄養  
部など多くの部門の先  
員の皆様にご協力  
しております。

青森県は成人の  
全国平均を上回っ  
ています。また、  
肥満に起因ないし  
関連する糖尿病や  
動脈硬化性疾患、  
悪性腫瘍などの罹  
患率や死亡率が高  
く、全国でも上位  
を占めています。

「肥満症」は、脂  
肪が体内に過剰に  
蓄積した状態であ  
る「肥満」に関連  
する健康障害（十  
一項目）を合併す  
るか、その合併が  
強く予測される  
「疾患」で、医学

ま 慢 鑑 手 医 治 が ま

内唯一の内科治療・外科治療が行える肥満治療センターとして県民の健康増進や寿命の延長に寄与するこれが期待されます。一方で、過栄養だけでなく様々な疾患を要因とする患者の低栄養状態は、患者のQOLを低下させるだけなく、入院の長期化により医療経済への影響も及ぼすこれから、「栄養治療」が今後一層必要とされています。NST(栄養サポートチーム)など附属病院の栄養治療体制と連携して、早期離床、術後QOLの改善、術後合併症の減少、入院期間の短縮を目指していきます。

今後とも、センターのさらなる発展のために、皆様のご指導とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

別賞は一件三百万円以内、若手奨励賞は一件二百万円以内としており、選考に当たつてはこれまでの国際共同研究の実績のみならず、今後の研究計画を厳正に審査し、受賞者には研究論文を成果として求めることにしております。

TMEM2を標的とした間質性膀胱炎の新規治療法の開発』と、附属病院神経科精神科講師 坂本由唯先生の『発達早期のBumetanide投与が脆弱X症候群モデルマウスの社会的行動に与える影響の解明』が選出され、七月十六日の教授会にて承認・決定されました。

令和七年十月八日、医学研究科大会議室にて、第八回櫻井医学研究賞授与式が、丸大サクラヰ薬局顧問の櫻井雅子様、同常務取締役 櫻井英男様、並びに福田眞作学長にご列席賜り、執り行われました。医学研究科長挨拶の後、今回受賞された三名の先生に助成金が贈呈され、福田学長並びに

## 医学部附属病院肥満症・栄養治療センター設置

内分泌代謝内科学講座 教授 藤田征弘



# 第8回 櫻井医学研究賞授与式

医学研究科長  
石橋恭之



一件百万円以内としており、選考に当たってはこれまでの国際共同研究の実績のみならず、今後の研究計画を厳正に審査し、受賞者には研究論文を成果として求めることにしております。

IMEMZを標的とした間質性膀胱炎の新規治療法の開発』と、附属病院神経科精神科講師 坂本由唯先生の『発達早期のBumetanide投与が脆弱X症候群モデルマウスの社会的行動に与える影響の解明』が選出され、七月十六日の教授会にて承認・決定されました。令和七年十月八日、医学研究科大会議室にて、第八回櫻井医学研究賞授与式が、丸大サクラヰ薬局顧問の櫻井雅子様、同常務取締役 櫻井英男様、並びに福田眞作学長にご列席賜り、執り行われました。医学研究科長挨拶の後、今回受賞された三名の先生に助成金が贈呈され、福田学長並びに別途お詫びの言葉を述べて、司会進行の方へとお話を譲りました。

---

Digitized by srujanika@gmail.com





弘前大学医学部および附属病院において系統解剖、病理解剖ならびに法医解剖のために御遺体を捧げられました御靈に対しても弔意を捧げるため、弘前大学医学部解剖体慰靈祭が令和七年十月七日午後一時三十分より弘前文化センター大ホールで挙行されました。慰靈祭にはご遺族四十六名ならびに本学白菊会会員二十一名の方々にご臨席賜り、また各方面から多くのご来賓をお迎えし、医学科および保健学科の教職員と学生が参列してしめやかに執り行われました。式に先立ち、弘前大学医学部管弦楽団による献体者慰靈のための演奏が行われ、会場全体が厳かな空気に包まれました。まず初めに医学の教育と発展のために本学にご献体いただきました御靈三一七柱に対して参列者全員による黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りいたしました。続いて、ご献体なされまし

# 弘前大学医学部 解剖体慰靈祭

生体構造医科学講座 教授 下田 浩

弘前大学医学部 解剖体慰靈祭



た方々（ご遺族のお許しが得られた方のみ）のご芳名が奉読されました。そして、石橋恭之医学部長より引き続き、医学科二年生の大久保健一郎さんが学生代表としてご献体いただきました。諸靈に対する深い感謝とご遺族への厚い御礼の意が込められた弔辞を捧げました。その後、石橋医学部長、袴田健一附属病院長、敦賀英知保健学科長、福田眞作学長、医学科二年生の大塚麻友さん、保健学科四年生の柴田祥真さん、千葉正司白菊会理事長による代表献花が行われ、袴田附属病院長よりご参列いただきました方々へ御礼の言葉が述べられました。最後に、参列者全員で献花を行い、慰靈祭は滞りなく終了いたしました。

当初は例年と同様に、慰靈祭終了後に医学部教職員はご遺族ならびに白菊会会員の方々とともに弘前市墓地公園にある弘前大学慰靈施設に参拝し、長期納骨施

令和七年九月三十日次に  
弘前大学創立50周年記念会  
館みちのくホールにて、令  
和七年度弘前大学及び弘前  
大学大学院秋季学位記授  
与式、医学研究科学位記伝  
達式が執り行われました。  
修了者の皆様、学位取得ま  
ことにおめでとうございま  
す。

# 令和7年度

# 秋季学位記授与式

医学研究科長 石橋恭之

設に献体者名簿を納め、黙祷と代表献花を行う予定でしたが、全国各地と肩を並べるように当墓地公園を含め弘前市近辺でも最近熊の出没による人的被害が多発していることから、参拝者の安全を図るため今年度の慰靈施設参拝は中止となりました。非常に残念なことはありますが、後日関係者のみで参拝し献体者名簿を慰靈施設に納め、慰靈を行いましたことをご報告いたします。



本スクーリングは、主に総合型入試（地域枠）による受験を希望する高校生を対象に行われたもので、当日は多数の受験生と保護者の皆さんが参加しました。冒頭では、弘前大学医学部の紹介動画（<https://www.med.hirosaki-u.ac.jp/web/movie.html>）を上映し

令和七年八月七日(木)十三時より、弘前大学医学部基礎大講堂にて「令和七年度弘前大学医学部医学科スクリーニング」を開催しまし

1. た後、  
2. 石橋恭之医学部長による講演「弘前大学医学部の歩みとこれから」  
富田泰史学務委員長

を含む九年間（うち四年間は医師不足地域）で医療に従事することです。

最後に、猛暑の中、本スクーリングの実施にご協力いただいた青森県健康医療福祉部の皆様ならびに本学教職員・事務スタッフの

A photograph showing two individuals seated at a table in what appears to be a competition or judging session. One person is wearing a dark blazer and the other is wearing a light-colored shirt. Nameplates are visible on the table in front of them. The background consists of green chalkboards.



れることを期待しております。  
ところで十一月五日に行われた大学機関別認証評価の訪問調査では、機構から医学研究科大学院の修業年限内での修了率の低さが学年ごとに指摘されました。大変お忙しいとは思いますが、指導医の先生方におかげで、大学院生の計画的なご指導をお願いしたいと思ひます。



## コラム 医学部 こぼれ話

では、医学教育が国家試験の「予備校」のようになつて良いのか?と聞かれれば、私は断固としてNOと言いたいところです。ただし、合格率で評価される現状を踏まえると、一定の専門学校化は避けられないのも現実です。

そこで現在、カリキュラムの全面的な見直しと、統一試験の導入を検討しています。新カリキュラムが学生のニーズに合致するのか、統一試験をどのように運用するのが適切か、課題

思います。ちなみに、統一試験になると、これまでの「仮進級（一単位のみ不足など）」は、今後なくなる可能性が高いたと考えられますのでご注意ください。

もちろん、詳細はこれから決まっていくため、現時点では不確定な要素も多くあります。しかし、皆さんのご意見が未来の方向性を形づくります。ご希望・ご要望があれば、どうぞお気軽にお寄せいただければ幸いです。

今回は現在本言いた進んで  
でいる「学生の新カリキュラム」と「統一試験」について、少し「こぼし」てみたいと思います。

は多くありますた、「…」  
チマインドを失わず、かつ  
国家試験合格率も向上でき  
る教育体制」を目指したい  
と考えています。

説明があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、青森県の奨学金制度は、手上げ方式を採用しておらず、希望申し込み集

皆様に心より感謝申し上げ  
ます。



(前ページより)  
扱い方や注射の実践など様々な経験をさせていただきました。

特に感心したのがハワイ大学の取り入れている授業方式です。弘前大学では、殆どの授業が講義であり、生徒が互いの学びを発表し合うことはありません。しかし、ハワイ大学では講義とPBL双方の授業によつて医学を学びます。PBLでは僅かな患者の情報をもとにハワイ大学の医学部生であるJABSOM studentsや研修の他の仲間と患者の注視すべきデータ、予想される疾患、すべき検査と処置をチームで考える実習を行いました。

今回の研修で行つたことは将来医師として働く上での糧になりました。

ハワイ研修を通じては将来医師として働く上で



## ハワイ大学夏季研修を終えて

医学科四年 井 上 慶 紀

八月二日～八月九日において、参加させていただい

たハワイ大学夏季研修について報告させていただきま

す。初めの二日間は、ハワイで働かれている日本人の

先生方にレクチャーをして

いただきました。先生方

は、どんな質問にも気さく

に答えてくださいました。

関係各所に改めて感謝申

し上げます。

医学の科学としての側面と

同等か、それ以上にアートと

しての面を大切にしてい

ました。医療面接の練習の

際は、ドアのノックの仕方

から始まり、患者との距

離、目線、声かけをとても

重視していました。これか

らの病院実習でも、このよ

うなアートの側面を忘れず

に、患者さんに接していく

ことです。

最後に、このような大変

くべき姿でした。ある先生

の、「Serve Others」という、

利他的な心を忘れないで、

というお言葉が非常に印象

に残りました。

八月四日からのJABSOM

で過ごした五日間は、毎日

が新しい体験の連続でし

た。

研修では、ハワイで働く

先生方のクリニック見学や

意見交換会、ハワイ大学の

医学生との診察実習やP

Bを行いました。なかでも

貴重な機会を与えてくだ

さった弘前大学の先生方、

そして温かくもなしてくれ

ださったハワイ大学の方々

に心より感謝を申し上げま

す。

研修では、ハワイで働く

先生方のクリニック見学や

意見交換会、ハワイ大学の

医学生との診察実習やP

Bを行いました。なかでも

貴重な機会を与えてくだ

さった弘前大学の先生方、

そして温かくもなしてくれ

ださったハワイ大学の方々

に心より感謝を申し上げま

す。

研修では、ハワイで働く

先生方のクリニック見学や

意見交換会、ハワイ大学の

医学生との診察実習やP

Bを行いました。なかでも

貴重な機会を与えてくだ

さった弘前大学の先生方、

そして温かくもなしてくれ

ださったハワイ大学の方々

に心より感謝を申し上げま

す。

研修では、ハワイで働く

先生方のクリニック見学や

意見交換会、ハワイ大学の

医学生との診察実習やP

Bを行いました。なかでも

貴重な機会を与えてくだ

さった弘前大学の先生方、

そして温かくもなしてくれ

ださったハワイ大学の方々

に心より感謝を申し上げま

す。

研修では、ハワイで働く

先生方のクリニック見学や

意見交換会、ハワイ大学の

医学生との診察実習やP

Bを行いました。なかでも

貴重な機会を与えてくだ

さった弘前大学の先生方、

そして温かくもなしてくれ

ださったハワイ大学の方々

に心より感謝を申し上げま

す。

研修では、ハワイで働く

先生方のクリニック見学や

意見交換会、ハワイ大学の

医学生との診察実習やP

Bを行いました。なかでも

貴重な機会を与えてくだ

さった弘前大学の先生方、

そして温かくもなしてくれ

ださったハワイ大学の方々

に心より感謝を申し上げま

す。

研修では、ハワイで働く

先生方のクリニック見学や

意見交換会、ハワイ大学の

医学生との診察実習やP

Bを行いました。なかでも

貴重な機会を与えてくだ

さった弘前大学の先生方、

そして温かくもなしてくれ

ださったハワイ大学の方々

に心より感謝を申し上げま

す。

研修では、ハワイで働く

先生方のクリニック見学や

意見交換会、ハワイ大学の

医学生との診察実習やP

Bを行いました。なかでも

貴重な機会を与えてくだ

さった弘前大学の先生方、

そして温かくもなしてくれ

ださったハワイ大学の方々

に心より感謝を申し上げま

す。

研修では、ハワイで働く

先生方のクリニック見学や

意見交換会、ハワイ大学の

医学生との診察実習やP

Bを行いました。なかでも

貴重な機会を与えてくだ

さった弘前大学の先生方、

そして温かくもなしてくれ

ださったハワイ大学の方々

に心より感謝を申し上げま

す。

研修では、ハワイで働く

先生方のクリニック見学や

意見交換会、ハワイ大学の

医学生との診察実習やP

Bを行いました。なかでも

貴重な機会を与えてくだ

さった弘前大学の先生方、

そして温かくもなしてくれ

ださったハワイ大学の方々

に心より感謝を申し上げま

す。

研修では、ハワイで働く

先生方のクリニック見学や

意見交換会、ハワイ大学の

医学生との診察実習やP

Bを行いました。なかでも

貴重な機会を与えてくだ

さった弘前大学の先生方、

そして温かくもなしてくれ

ださったハワイ大学の方々

に心より感謝を申し上げま

す。

研修では、ハワイで働く

先生方のクリニック見学や

意見交換会、ハワイ大学の

医学生との診察実習やP

Bを行いました。なかでも

貴重な機会を与えてくだ

さった弘前大学の先生方、

そして温かくもなしてくれ

ださったハワイ大学の方々

に心より感謝を申し上げま

す。

研修では、ハワイで働く

先生方のクリニック見学や

意見交換会、ハワイ大学の

医学生との診察実習やP

Bを行いました。なかでも

貴重な機会を与えてくだ

さった弘前大学の先生方、

そして温かくもなしてくれ

ださったハワイ大学の方々

に心より感謝を申し上げま

す。

研修では、ハワイで働く

先生方のクリニック見学や

意見交換会、ハワイ大学の

医学生との診察実習やP

Bを行いました。なかでも

</

（前ページより）  
だけでなく、学生たちの日常生活にも触れる機会があり、その自由で主体的な学びの姿勢に強い印象を受けました。また、昨年弘前大学で経験したPBL (Problem Based Learning) と同じ形式でPBLが行われていたことも印象的でした。ディスカッションの進め方や問題解決のプロセスが共通しており、疾患に対する考え方やアプローチが国や言語を超えて共有されていることを再確認しました。

一方で、英語を用いたコミュニケーションの難しさ

にも直面しました。単なる医学英語の使用だけでなく、模擬患者を相手にした実技形式のワークでは、訴えを汲み取り、適切に質問や声掛けを行うことの難しさを痛感しました。海外で医療を学ぶことの意義と魅力を改めて実感する研修となりました。

学生  
だより  
**米軍三沢**

今回の米軍三沢基地病院  
実習では、Urgent Care、  
眼科、家庭医療、精神科を  
見学し、米国医療に触れる  
ことができました。

精神科では派兵後のPT  
SD患者の診察に同席し、  
医学的側面だけでなく社会  
学的・医療経済学的視点の

# ハワイ研修2025

医学科五年 毛利惇一郎

今夏、ハワイ大学夏季研修に参加させていただきました。非常に充実したプログラムで、新たな視点や刺激を得ることができました。

との難しさとその実態について具体的に知ることがで  
きました。

さらに、日本の他大学の学生とも交流を深めることができ、その繋がりが今でも続いていることは大きな財産だと感じています。

プログラムの中で特に印象的で、あつたのは診察シミュレーションです。患者さんとのコミュニケーションを特に重要視する点に、日本との大きな違いを感じました。聴診や身体診察に

夏季休業期間の五日間  
三沢米軍基地病院で実習に  
参加しました。もともと英  
語が好きで、将来的に海外  
で医師として働くことにも  
関心があつたため、現地の  
医療の実際を見て、日本と  
の違いを学びたいと思い参  
加を決めました。

基地の中に入ると、街並  
みや雰囲気がまるでアメリ  
カそのもので、日本にいる  
ことを忘れてしまうような  
感覚を覚えました。病院で  
は救急科、一般内科、小児  
科、眼科など幅広い診療科  
を回り、診察や処置の見学

に加えて講義も受けるなど、多角的に米国の医療を学ぶことができました。実際に問診も取させていただき、これまでの実習で学んだことを活かす良い経験となりました。印象的だったのは、どの診療でも患者一人一人に十分な時間をかけ、丁寧に対応していたことです。患者数が少ないことも関係しているかもしけませんが、その分じっくりと向き合う姿勢が感じられ、説明の仕方や言葉の選び方がとても参考になりました。また、今回の実習で

## 三沢米軍基地での研修を通じて

医学科六年 上 野 裕 貴

らに米国四軍間の関係性を体験できたことも印象深く、ホーム

間、  
に加えて講義も受け  
ど、多角的に米国の医  
医学科六年 上野裕

貴  
ホストマザー  
は、救急科で勤務されて  
る Family Medicine 専門  
Dr. Leanne Rawji の家  
にホームステイさせてい  
だきました。♪主人の工  
Adam Rawji も同じく医  
師であり、お一人からアメ  
リカにおける医師のキャリ  
バストリートについて貴重なお話  
伺うことができました。  
たお二人のお子さんやワ

この度実習の機会をいたしました  
だき、受け入れてください。  
た天内さん、ホームステイ  
先のDr.Passeyご家族、日  
本人フェローの方々、そ  
て各診療科でご指導ください  
さつた皆様に心より感謝申  
し上げます。

学科六年 滝谷真呼  
ルコール依存症患者の自助グループに参加し、断酒だけではなく、「飲酒に責任をもつ」という立場からも議論がされていた点が新鮮でした。産婦人科では、避妊法の豊富さや診療中にオーブンに避妊を話題にする医師と一緒に患者の距離の近さに驚いた。

## 三沢米軍病院で得た学び

医学科六年 澱谷真呼

ステイ先のMaakestad さんとご近所の方々の温かいホスピタリティに支えられ充実した毎日を過ごしました。米軍病院では軍人・軍属が無料で医療を受け、来院者は健康な成人が中心であるなど、米国社会の代表ではありませんが、その上でも米国の医療の一端触れることがきた経験を今後のキャリアに活かしていきたいと考えます。

最後にはなりますが、実習を実現してくださった皆様、受け入れて頂いた米軍関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

八月に三沢米軍病院にて  
五日間の夏季研修に参加させて頂きました。三沢市とは、私の地元十和田市とも隣接し、幼少期から慣れ親

三沢米軍病院夏季  
医

しんだ土地です。一方で米軍基地に関しては、基本的に軍関係者のみの立ち入りが許されているため、そう簡単に出入りすることができます。しかし、憧れの場所でもありました。また、米軍基地の中の病院での仕事内容や生活における基地の外との違いに關しても興味深く思つております。

実習では、アメリカ式の外来の様子から手術の見学

難しく、自身の英語力の未熟さを感じました。ですが、五日間の英語漬け生活を経て、研修が終わる頃には聞く能力、表現する能力共に向上を感じることができました。日常会話における表現だけではなく、医学に関する専門的な語彙や表現を身につけることができ、大変勉強になりました。ホームステイ先では、アメリカンスタイルの生活を体験することができました。日本にいながらこうして文化の違いを体験できるのはこの研修ならではの機会であり、貴重に感じました。

# 学生 だより 米軍二沢病院夏季研修

# 米軍三沢病院夏季研修を振り返って

医学科五年  
西  
雅  
人

## 三沢米軍病院夏季研修に参加して

医学科六年 杉澤尚帆

診療科見学では、精神科と産婦人科が特に印象に残りました。精神科では、ア

実習となりました。



## 若手教員・医師だより

附属健康未来イノベーションセンター

助教 沢田 かほり

医学研究科附属健康未来イノベーションセンター先制医療学講座の沢田かほりと申します。私は、共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)の枠組みの中で、地域住民を対象とした健診を運営し、得られたデータを学内外の研究者が活用できるよう整備したり、そのデータをもとに自身の研究や学生の研究指導を行っています。今回は、日々の健診業務を通して感じていることを述べさせていただきます。

当センターでは、①三千項目を超える健康ビッグデータを集積する「岩木健康増進プロジェクト健診(岩木健診)」、②全国八拠点からなる認知症コホートの一拠点として二〇一六年から十年計画で行っている「いきいき健診」③メタボ・ロコモの包括的な検査に健康教育を組み合わせた「QOL健診」の三つを実施しています。

岩木健診は、三十以上の研究機関が参加し、テーマが重ならないよう調整しながらデータを取得しています。この度、寄稿の機会を頂きましたので、私の研究についてご紹介させていただきます。

医学研究科附属バイオメディカルリサーチセンター分子病態病理学講座の佐々木崇矩と申します。私は臨床検査技師であり、保健学管理など多方面の課題に対応しなければなりません。そのため、健康未来イノベーション機構のURAや技術補佐員の皆様と協働して課題解決に取り組んでいます。課題が山積みで途方

に暮れることもありますが、COI-NEXTの評価面談で「弘前大学が世界の最先端を走っている。ぜひ先駆けて仕組みを作つてリードしてほしい」とのお言葉をいただき、挑戦の意義を改めて感じました。

いきいき健診は、開始時六十五歳以上の方を対象としており、現在では多くの方が七十五歳を超えられました。約半数の方が十年間続続受診してくださり、「今かかった」と笑顔で話される姿に励まされています。一方で、ご逝去の報に接することもあり、自身の親や家

に暮れることもありますが、COI-NEXTの評価面談で「弘前大学が世界の最先端を走っている。ぜひ先駆けて仕組みを作つてリードしてほしい」とのお言葉をいただき、挑戦の意義を改めて感じました。

医学研究科附属バイオメディカルリサーチセンター分子病態病理学講座の佐々木崇矩と申します。私は臨床検査技師であり、保健学管理など多方面の課題に対応しなければなりません。そのため、健康未来イノベーション機構のURAや技術補佐員の皆様と協働して課題解決に取り組んでいます。課題が山積みで途方

## 若手教員・医師だより

分子病態病理学講座

助手 佐々木 崇矩

医学研究科附属バイオメディカルリサーチセンター分子病態病理学講座の佐々木崇矩と申します。私は臨床検査技師であり、保健学管理など多方面の課題に対応しなければなりません。そのため、健康未来イノベーション機構のURAや技術補佐員の皆様と協働して課題解決に取り組んでいます。課題が山積みで途方

に暮れることもありますが、COI-NEXTの評価面談で「弘前大学が世界の最先端を走っている。ぜひ先駆けて仕組みを作つてリードしてほしい」とのお言葉をいただき、挑戦の意義を改めて感じました。

いきいき健診は、開始時六十五歳以上の方を対象としており、現在では多くの方が七十五歳を超えられました。約半数の方が十年間続続受診してくださり、「今かかった」と笑顔で話される姿に励まされています。一方で、ご逝去の報に接することもあり、自身の親や家

に暮れることもありますが、COI-NEXTの評価面談で「弘前大学が世界の最先端を走っている。ぜひ先駆けて仕組みを作つてリードしてほしい」とのお言葉をいただき、挑戦の意義を改めて感じました。

いきいき健診は、開始時六十五歳以上の方を対象としており、現在では多くの方が七十五歳を超えられました。約半数の方が十年間続続受診してくださり、「今かかった」と笑顔で話される姿に励まされています。一方で、ご逝去の報に接することもあり、自身の親や家

に暮れることもありますが、COI-NEXTの評価面談で「弘前大学が世界の最先端を走っている。ぜひ先駆けて仕組みを作つてリードしてほしい」とのお言葉をいただき、挑戦の意義を改めて感じました。

# 分子病態病理学講座

分子病態病理学講座 教授 水上 浩哉



クトファクターが高い雑誌に論文が掲載されました。また、国内外の複数組織と共同研究を行つており、今年度は Science Translation Medicine に論文が掲載されています。糖尿病を病理化技術」は現在、確立された技術として広く普及しつつあります。透明化された臓器は、ライトシート顕微鏡や共焦点レーザー顕微鏡などを用いることで、三次元的な観察・撮影が可能となります。しかし、そこで得られるデータはあまりに膨大です。そのため定量解析が難しく、従来の利用法は画像や動画として提示する「定性的」なものに留まりがちでした。

こうした背景に対し、私は「膨大な3DデータをAIに処理させることで、末梢感覚神経の細胞体容積を定量できないか」と考えました。昨今のAI研究の進歩を取り入れながら、独自にAIモデルを作成・改良し、一昨年に科研費(基盤研究C)の採択を受けることができました。研究は思うようにいかないことも多く、壁にぶつかることもあります。しかし、浩哉教授をはじめとした教員の皆様の温かいご指導に支えられ、継続できています。この場を借りて御礼申し上げます。また、今後とも皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



# 眼 科 學 講 座

眼科学講座 教授 上野真治

眼科学講座は、大学発足当時から設置されており、七十年以上の歴史を有しています。二〇二二年に私は（上野）が第四代教授として就任いたしました。現在、当講座には十六名の医師（うち教員六名）が在籍しています。眼科は日常診療の中でも特に手術件数が多い診療科であり、多くの医師が手術に強い関心を持ち、互いに切磋琢磨しながら技術の研鑽に励んでいます。眼科の研究は、かつては基礎研究が中心でしたが、現

在では臨床研究が盛んに行われるようになりました。私が眼科医になつた約二十五年前には、眼内の網膜構造を多角的に評価することは困難であり、医師が主観的に所見を判断していました。しかし、光干渉断層計（OCT）の発展により、患者の網膜の微細構造を直接観察できるようになり、眼科診療は眼底検査主体からOCT主体へと大きく変化しました。それに伴い、研究も動物モデルを用いた研究から、患者の臨床画像を解析する臨床研究へとシフトしています。

## OB OG 書籍出版物の紹介 Vol.2 書評 中路重之

### 「医療落語：博士と助手の落語（おちばなし）36選」

著者：仲本光一 世論時報社（令和7年9月30日発行）

仲本光一先生。昭和58年弘前大学医学部を卒業された私の少し後輩です。国立横浜病院などで外科医として研修し、その後外務省のドクターとして活躍しました。今は岩手県県央保健所の所長として岩手県の保健行政の中心を担っています。その仲本先生がこの度医療落語の本を出版されました。聞けば、外務省勤務時代在留邦のために医療情報の提供の意味を込めて書かれたそうです。

落語形式になっていますからどんどん読み進んでいます。先生は、20年余にわたる外務省勤務時代、医務官としてミャンマー、インドネシア、インド、アメリカ（ニューヨーク）、タンザニア、カナダなどに赴任しておられます。ですから、インドネシア編、インド編、タンザニア編、カナダ編などのくくりになっているわけです。

確かに、ダントンや中川家の漫才に比べると“うげ”は今一つかもしれません。それもそのはずです。本書の落語にはもう一つの使命があります。それは読者のヘルスリテラシーを高めるというものです。読み終わった時に、自然な形で健康や病気の知識が刻み込まれます。このようないろんな勉強ができたどんなによいか、と思います。

感染症で名高い岡部信彦先生が帶で本書を絶賛していますが、その中にこう書いてあります。「随所にある“落ち”を見逃さず、慌てずゆっくりと読むことをお勧めします。」つまり、落ち着いて読むは、“落ち付いて読む、”ということだそうです。

ジャズの演奏もやり、落語のシナリオを嗜む仲本先生が、今後も岩手県のみならず日本の保健行政の分野で大活躍されることを祈っています。



展示を、遊びは、スタンプラリー&お菓子すくい、臓器輪投げ、ぱい菌ボーリングを行いました。救急は、BLS体験とトリアージタグ展示を、産婦人科は、妊娠専門分野である遺伝性網膜疾患、特に日本における失明原因の第二位である網膜色素変性の研究に取り組んでいます。赴任後は、原因は、現在、所属する大学院生五名を中心に進められています。前教授の中澤先生の時代には、主にモデル動物を用いた実験的研究が行われ、高いレベルの成果が得られました。私たちはその一部を引き継ぎ、近年、動物実験を再開しました。特に夜盲のモデルマウスであるRetinol Dehydrogenase (RDH) 5ノックアウトマウスを用いた研究を行っており、このマウスは白点状眼底という疾患のモデル動物とされています。

眼科は日常診療の中でも特に手術件数が多い診療科であり、多くの医師が手術に強い関心を持ち、互いに切磋琢磨しながら技術の研鑽に励んでいます。眼科の研究は、かつては基礎研究が中心でしたが、現

在では臨床研究が盛んに行われるようになりました。私が眼科医になつた約二十五年前には、眼内の網膜構造を多角的に評価することは困難であり、医師が主観的に所見を判断していました。しかし、光干渉断層計（OCT）の発展により、患者の網膜の微細構造を直接観察できるようになり、眼科診療は眼底検査主体からOCT主体へと大きく変化しました。それに伴い、研究も動物モデルを用いた研究から、患者の臨床画像を解析する臨床研究へとシフトしています。

臨床研究としては、私のかつた「なぜ白点が生じるのか」「なぜ網膜が変性するのか」といった疑問の解決を追求しております。

## 弘前大学総合文化祭 医学科4年遠藤藤彩加

婦エプロン体験を、展示は、人体模型展示と旧五輪選手の室伏由佳さんのサインやメッセーの掲示を行いました。

肌寒さが増してきた十月下旬、総合文化祭で医学科下旬、総合文化祭で医学科展二〇二五を開催しました。今年は、昨年のQOL研究はまだ始まつたばかりで、手探りの部分も多い状況ですが、教室全体として着実に進歩していること

従来は捉えられなかつた網膜変性後の網膜の可塑性について研究を行っています。これまで、特に夜盲のモデルマウスであるRetinol Dehydrogenase (RDH) 5ノックアウトマウスを用いた研究を行つており、このマウスは白点状眼底という疾患のモデル動物とされています。

昨年は動画放映のみで、今年は動画放映のみで、今年は動画放映のみで、昨年の代表引継ぎを機に、医学科展刷新を目標に、他大学の医学展の観察や過去のホームページの閲覧などからアイデアを収集し、構想・企画・実施準備を約三ヶ月で進め、老若男女が楽しめる体験型企画を充実させました。今年は企画の追加と広報強化、運営スタッフの勉強会を実施し、仲間と協力して活動の裾野を広げることができました。来場者数は千人超、スタッフ数は二十二人と、どちらも一



を継承していきたいです。また、二年間駆けずり回つたことで、来場者や学生、先生との繋がりもでき、貴重な財産になりました。開催にご協力くださった先生、生協学生委員会、学務、学祭本部、スタッフ、ご来場の皆様に心より感謝申上げます。来年度の医学科展の開催にもご協力いただけますと幸いです。



(表) 令和7年度 第68回東日本医科学生総合体育大会夏季競技の主な好成績

柔道部	男子 個人 60kg級	安達秀太郎(3年)	3位
剣道部	女子 団体		ベスト8
	男子 個人	中村 風然(6年)	ベスト16
空手道部	男子 総合		準優勝
	男子 個人 組手	井伊 琳哉(1年)	優勝
	男子 団体 形		3位
	女子 団体 組手		3位
水泳部	女子 総合		3位
	女子 400m 自由形		2位
	男子 200mバタフライ	山崎丈太朗(1年)	2位
	男子 400m個人メドレー	山崎丈太朗(1年)	2位
バレーボール部	女子		ベスト8
野球部	男子		ベスト8
硬式テニス部	女子		ベスト16
陸上部	男子 100m	森 裕理(3年)	4位
	男子 400mハードル	酒谷 泰生(4年)	3位
	男子 4×100mリレー		優勝
	男子 4×400mリレー		4位
	男子 走り高跳び	酒谷 泰生(4年)	4位
	女子 1500m	平山 茜(5年)	3位
	女子 3000m	平山 茜(5年)	優勝
	女子 走り幅跳び	藤原 幸羽(3年)	3位
	女子 円盤投げ	村上 桃子(5年)	優勝
	女子 砲丸投げ	佐藤 佑奈(6年)	優勝
		村上 桃子(5年)	3位
	女子 フィールド		1位
	女子 総合		4位



ソフトミニス部

医学部ソフトテニス部は一九六〇年に発足し、今年で六十五年目を迎えた。現在は男子十三名、女子十六名で活動しており、今年に関しては医学科六年、保健学科四年の計十四名の部員が引退し、十五名の新入部員が加入するという激動の一年になりました。

た。活動日は毎週火、金、土曜日、また希望者は木曜日。自主練という形で大学の学園町コートや弘前市内にあります。今年の大会における主要な成績としましては、春季北医体では女子団体ベスト2（決勝は未実施）、東医体では男子個人



医学科三年 赤石孝介

16、女子個人戦ベスト32、女子団体戦士位、女子個人戦ベスト8、全医体では女子個人戦

試合を見るることはあつても  
ソフトテニスの試合を見る  
方は少ないでしょう。それ  
でも、ソフトテニスの試合  
は基本ダブルスで個人戦、  
団体戦形式で行われてお  
り、自分のプレーに対する  
責任や、それに付随する仲  
間との信頼が芽生えるとい  
(次へ一  
ジへ続く)

東日本医科学生総合体育大会、通称東医体は東日本医科学生体育連盟が主催する大会です。各加盟校には参与、理事、評議員がおり、本学の参与は石橋恭之医学部長、理事は津田英一教授で、評議員は代々バレーボール部の主務が務めさせていただいております。評議員として六十年以上の歴史ある大会に携われますこと、大変光栄に思います。精一杯努めてまいる所存でござりますので、よろしくお願いいたします。

明けてからの三度目の開催となり、東京大学の代表主管で八月に行われました。本学の夏季競技終了時点の総合成績は全参加校三十八校のうち第九位、男子部門においては第六位と健闘し、多くの部活動で優秀な成績を収めることができました。本学の主な成績を表に示しましたのでご覧ください。なお、冬季競技のスキーリレーは三月二日～三月九日に菅野平高原、峰の原高原スキー場で開催されます。東医体出場にあたり、今年度も多くの方々からお力

弘前大学医学部バドミントン部は、二〇二五年で創部六十周年を迎えました。これまで多くのOB・OGの先生方に支えられ、現在部員四十名、マネージャー添えをいただきました。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。今後も各部とも文武両道の精神で、学業に勤しみ、東医体冬季競技に向けて、また来年度の夏季競技に向けて練習に励んでまいります。引き続きご声援のほどよろしくお願いいたします。

評議員（医学科三年）白船真帆

## 東日本医科学生総合体育 大会夏季競技を終えて

## 部活動紹介

医学科三年 藤原成佑

二名で活動しています。現在の部長は医学教育学講座の鬼島宏特任教授です。私たちは週に四回、弘前大学の文京キャンパス第二体育館で練習を行っています。練習内容は体力づくりと基礎練習が中心で、フットワークや基礎打ち、ノック練習など一つ一つの動きを丁寧に積み重ねています。また、大会前にはゲーム練習を多く取り入れ、実践感覚を磨くことで、本番に向けた調整とチーム全体のレベルアップを図っています。さらに、定期的に他大学との練習試合を行っていきます。

バドミントンが好きな方、興味がある方は、ぜひ一度見学・体験にいらしてください。先輩たちのプレーを見れば、バドミントンの面白さを体感できると間違いないでしよう！

最後に、OB・OGの先生方をはじめ、日頃よりご

指導・ご支援をいたたいて  
いる皆さまに心より感謝申  
し上げます。創部六十周年  
を迎えた今、私たちはこれ  
までの歴史を大切にしつ  
つ、さらなる飛躍を目指し  
て日々の練習に取り組んで  
いきます。

# 写真コレム(30) 陸 碢 南

## 血管・炎症医学講座



【写真】 陸 2007

陸羯南（くがかつなん: 1857-1907）は、江戸時代の末期に弘前市在府町に生まれました。明治時代に活躍したジャーナリストとして知られています。陸羯南について特記すべきことは、一つには、社長兼主筆として新聞「日本」を創刊し、不偏不党の立場から、薩摩・長州出身者によって固められた明治政府が進める極端な欧化政策を痛烈に批判したことです。新聞

「日本」は何回も発行停止処分を受けたそうです（言論の自由がなかった）。もう一つは、脊椎カリエスで寝たきりとなった正岡子規を支えたことです。陸羯南は、弘前が生んだ最も偉大な人物の一人だと思います。陸羯南については、鎌田慧（かまたさとし）著「反骨のジャーナリスト」（岩波新書）がわかりやすいので、是非、読んでいただきたいと思います。ちなみに、鎌田慧は弘前市・弘前高校出身のルポライターです。写真は2007年に弘前市立郷土文学館（弘前市立図書館の隣）で開催された陸羯南展の掲示です。弘前市立郷土文学館では、弘前にゆかりのある文学者を紹介しており、一度訪れてみる価値があると思います。

(前ページより)  
う点で、他競技に勝るとも劣らない魅力があると私は考えています。

さて、遠征は年三回（全医体出場者は年四回）あり、東医体では軽井沢、春季・秋季北医体では北海道、東北、新潟のいずれかに赴きます。遠征では試合に限らず、各地の風土に触れ、名所や食事を堪能すること

で、楽しいひとときを過ごしています。その他にも、お花見や海水浴、バーべキューといったイベントを通じて部員の親睦を深めています。もし当部に興味がないましたらお気軽に見学にいらしてください。

最後になりますが、平素の活動を支えてくださっている方々にこの場を借りて深く御礼申し上げるとともに、その名の通り「Entrepreneur」、いわゆる「起業部」です。「医学部生がなぜ」とよく聞かれます。もともと活動内容そのものよりも、私は、部員一同、感謝を忘れず部活動に取り組んでまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申



医学科四年 佐々木 慎一朗

## アントレ部

トップスクールの学生たちと交流し、彼らの圧倒的な「社会実装力」に強い感銘を受けました。

例えば米国のMITでは、学生が研究で得た知見を手に市長へ直談判し、研究資金を獲得するといった行動が当たり前に起こっています。MITの彼らは、

今ある社会を受動的に生きることをもつたないと捉えています。学生である彼らが身の回りで起きた現象に対し、感じたその違和感

行動が当たり前に起こっています。MITの彼らは、

今ある社会を受動的に生きることをもつたないと捉えています。学生である彼らが身の回りで起きた現象

に対し、感じたその違和感

# 書籍の おしらせ



このたび、医療従事者、学生の皆様に向けた実践的なガイドブック『この1冊からはじめる肺聴診の手引き』を刊行いたしました。聴診は、画像や血液検査でも得られない生体情報を得られる技術であり、呼吸器疾患に限らず日常診療において非常に重要な役割を果たしています。本書は、呼吸器診療において基本でありながら習得が難しい肺聴診技術を、初学者でも理解した入門書です。聴診器の当て方や聴診部位、身体診察などの基本知識から、異常呼吸音の

## 「この1冊からはじめる肺聴診の手引き」

田坂 定智  
(呼吸器内科学講座 教授)

このたび、医療従事者、学生の皆様に向けた実践的なガイドブック『この1冊からはじめる肺聴診の手引き』を刊行いたしました。聴診は、画像や血液検査でも得られない生体情報を得られる技術であり、呼吸器疾患に限らず日常診療において非常に重要な役割を果たしています。本書は、呼吸器診療において基本でありながら習得が難しい肺聴診技術を、初学者でも理解した入門書です。聴診器の当て方や聴診部位、身体診察などの基本知識から、異常呼吸音の

発生メカニズム、肺音の特徴、各疾患に特徴的な所見まで、肺の聴診に関する知識が分かりやすくまとめられています。

また本文中のQRコードから音源や動画に簡単にアクセスできるようになっています。り、実際の症例や肺音所見に触れて病態把握・診断の実践的な理解を深められるように工夫されています。本書は肺音(呼吸音)研究会で毎年開催している肺聴診セミナーの講師陣が中心となって執筆しており、医師やメディカルスタッフ、学生など、聴診器を持つすべての方に手に取つていただきたい一冊となっています。

部の挑戦であり、私たちが考える「医師法一条の三」

## 人事異動 (R7.9.1 ~ R7.11.30)

### ●医学研究科所属

#### 【昇任】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R7.10.1	消化器血液免疫内科学講座	准教授	菊池 英純	地域医療学講座 講師
R7.10.1	脳神経外科学講座	講師	片山 耕輔	脳神経外科学講座 助教
R7.10.1	地域医療学講座	講師	蓮井 桂介	附属病院 消化器内科、血液内科、免疫内科 助教
R7.10.1	総合地域医療推進学講座	助教	佐々木 貴夫	総合地域医療推進学講座 助手

#### 【採用】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R7.10.1	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	教授	鈴木 真輔	秋田大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 准教授
R7.10.1	呼吸器内科学講座	助教	小堀 由璃	附属病院 呼吸器内科、感染症科 病院助手
R7.10.1	胸部心臓血管外科学講座	助手	田口 亮	弘前中央病院
R7.10.1	眼科学講座	助手	一戸 寛	附属病院 眼科 病院助手

#### 【配置換】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R7.11.1	内分泌代謝内科学講座	助教	水尻 諭	附属病院 内分泌内科、糖尿病代謝内科 助教

#### 【辞職】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R7.9.30	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	助教	三橋 友里	附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 医員
R7.9.30	バイオメディカルリサーチセンター(分子病態病理学)	助手	龍崎 正樹	千葉県健康福祉部
R7.10.31	内分泌代謝内科学講座	助教	渥野井 祥	Children Hospital Medical Center

### お悔やみ

弘前大学名誉教授（元脳神経外科学講座教授）大熊洋揮氏には、令和七年十一月十五日に逝去されました。行年六十九歳  
ここに、謹んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈りいたします。

### ●附属病院所属

#### 【昇任】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R7.10.1	内分泌内科、糖尿病代謝内科	講師	村澤 真吾	内分泌代謝内科学講座 助教

#### 【採用】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R7.10.1	放射線診断科	助教	新宅 知博	放射線診断科 病院助手
R7.10.1	病理部	助手	類家 英史	八戸市立市民病院
R7.10.1	高度救命救急センター	助教	太田 宗一郎	順天堂大学医学部附属静岡病院
R7.10.1	高度救命救急センター	助教	中村 謙	市立函館病院
R7.10.1	消化器内科、血液内科、免疫内科	助教	村井 康久	青森県立中央病院
R7.10.1	整形外科	助教	藤田 拓	つがる総合病院
R7.10.1	泌尿器科	助教	富樫 起	大館市立総合病院
R7.10.14	高度救命救急センター	助教	中村 崇志	八戸市立市民病院

#### 【辞職】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R7.9.30	内分泌内科、糖尿病代謝内科	助手	臼谷 真理	内分泌内科、糖尿病代謝内科 病院助手
R7.9.30	内分泌内科、糖尿病代謝内科	講師	松橋 有紀	黒石市国民健康保険黒石病院
R7.9.30	腫瘍内科	助手	陳 豊	腫瘍内科 病院助手
R7.9.30	小児科	助手	三浦 文武	小児科 病院助手
R7.9.30	小児科	助手	北川 陽介	小児科 病院助手
R7.9.30	整形外科	助教	坂本 祐希子	つがる総合病院
R7.9.30	泌尿器科	助教	成田 拓磨	大館市立総合病院
R7.9.30	放射線診断科	助教	辰尾 宗一郎	なし
R7.9.30	麻酔科	助手	清川 聖代	麻酔科 病院助手
R7.9.30	脳神経外科	助教	角田 聖英	青森新都市病院
R7.9.30	周産母子センター	助手	山本 達也	小児科 病院助手
R7.9.30	周産母子センター	助手	嶋田 淳	小児科 病院助手
R7.9.30	集中治療部	助手	外崎 充	麻酔科 病院助手

今年度最後の医学部ウォーカーをお届けします。今年はJPPEAKSに採択される一方、基礎講座の人員削減、講座再編、昇進基準の策定など非常に重い事項で一年が過ぎていった感じです。JPPEAKSの採択により研究大学という位置づけになり、基礎講座は研究大学の屋台骨を担うといいます。また、今年は熊の被害が特に東北、北海道でクローズアップされた年でした。秋田県では病院で熊の侵入を阻止するために玄関を自動ドアから手動に変えたり、児童の送り迎えが必要になったり、街中でも能対策は喫緊なものになつております。かくいう私も某駅ホームで電車を待つていたところ、メートルくらいのところ熊がホームと線路を横切り、林に消えるという経験しました。目の前の熊はかわいいといつものではなく、どう見ても猛獸でした。もし熊が方向を変えてこちらに来たら、もはや逃げ難い。翌日の地元紙に載つていました（全く避難していません）。熊が駅ホームに現れる、と記事が載つており、待ち合客（私を入れて三人くわいきたい」と思いました。駅に来なかつたことを僕はとし、来年度も頑張つて

## 編集後記